

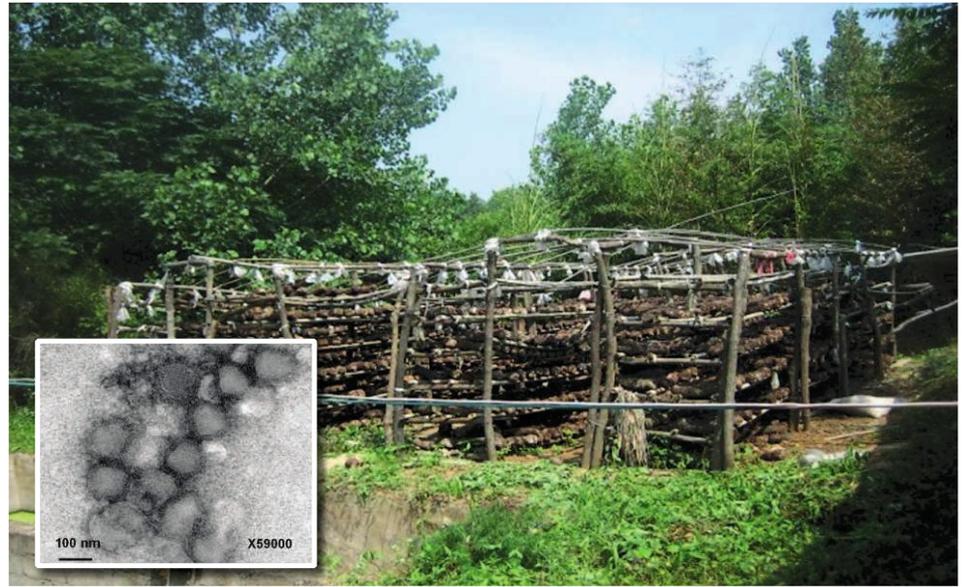
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

ORIGINAL ARTICLE

Fever with Thrombocytopenia Associated with a Novel Bunyavirus in China

N ENGL J MED 364;16 NEJM.ORG APRIL 21, 2011



Into the hot zone. Xue-jie Yu (*left*, in blue shirt) looks on as farmers check a dog for ticks; forest-hugging farms (*right*) were hard hit by the emerging virus (*inset*).

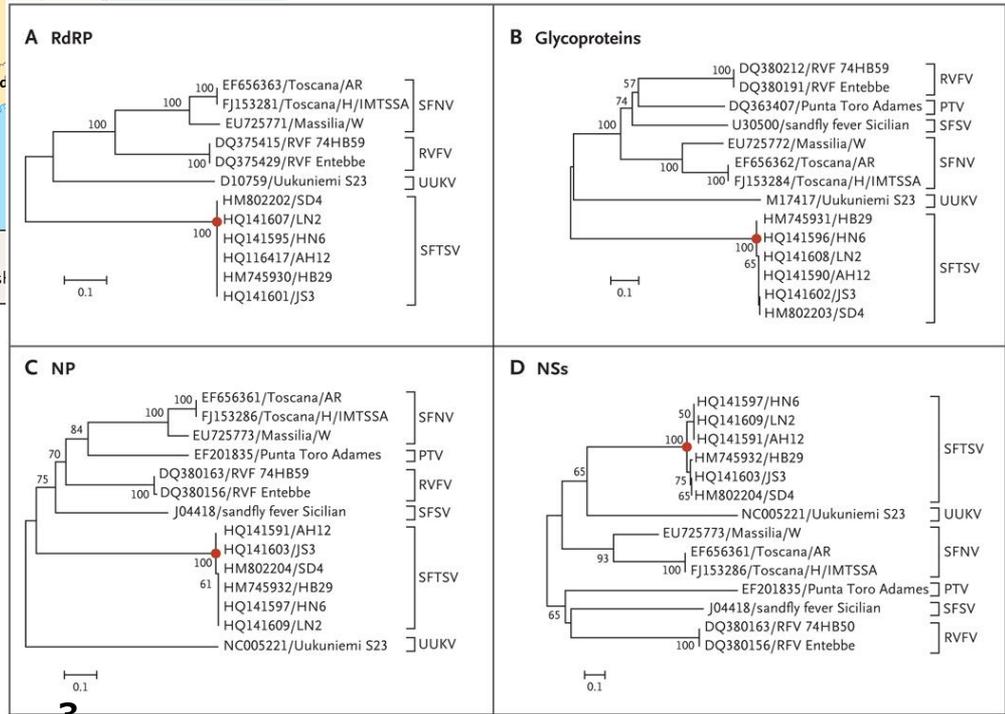
SFTS

- ダニ媒介性感染症
- 2009年中国湖北省と河南省の山岳地域
- ヒト顆粒球アナプラズマ症などの感染性疾患に類似
- 発熱、胃腸症状、血小板減少、白血球減少
- 21/171(12%) 死亡
- **新種のブニヤウイルス(SFTSウイルス)**
- 血液や体液との直接的接触によるヒトからヒトへの感染
- 患者血清中 10^3 - 10^9 コピー/ml
- 流行地域のフタトゲチマダニ 5.4%陽性



Figure 1. Geographic Distribution of SFTS in Mainland China.
 Areas where SFTS surveillance was carried out and SFTS bunyavirus was isolated from patients are shown in red.

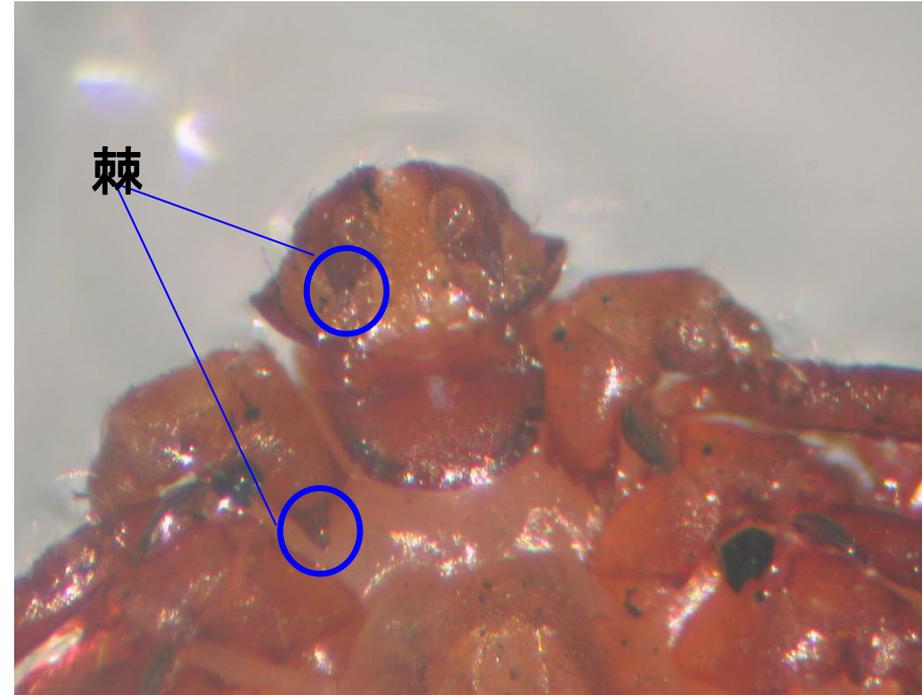
ブニヤウイルス科
 フレボウイルス属



フタトゲチマダニ *Haemaphysalis longicornis*



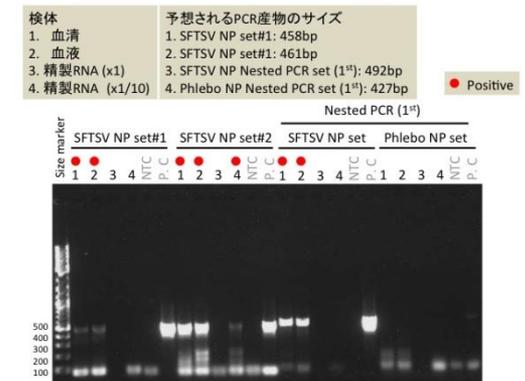
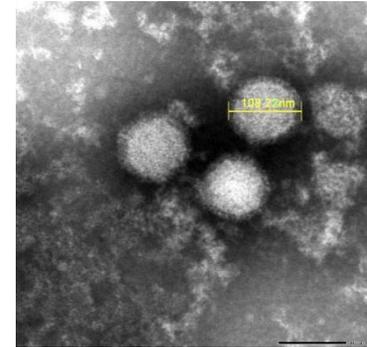
- 日本全国に分布
- バベシア症原虫
- 日本紅斑熱リケッチア



日本におけるダニとSFTSウイルスの
関連については、今後の調査を待たな
なくてはならない。

日本で初めてSFTSと診断された患者

- 患者: 海外渡航歴のない成人患者
- 時期および場所: 2012年秋, 山口県
- 症状: 発熱、嘔吐、下痢(黒色便)
- 検査所見: 白血球数($400 /\text{mm}^3$)と血小板数($8.9 \times 10^4 /\text{mm}^3$)が著明に低下していた。また、AST、ALT、LDH、CKの高値が認められた。血液凝固系の異常、フェリチンの著明な上昇も認められた。尿検査で血尿、蛋白尿が認められた。骨髄穿刺検査により、マクロファージによる血球貪食を伴う低形成髄の所見が認められた。
- ウイルス学的検査所見
 - 血液から分離されたウイルスの性状が中国で分離されているSFTSウイルスと同様であった。
 - 急性期患者血清からSFTSウイルス遺伝子が検出された。
 - SFTSウイルス抗体は陰性であった。
 - 分離ウイルスの遺伝子塩基配列を用いた解析によると、中国分離株とは独立していることが明らかにされた。
- 病理学的検査: リンパ節等にSFTSウイルス抗原が検出された。
- 診断: 重症熱性血小板減少症候群



今後必要な調査・研究

- 日本における疫学調査
- 感染リスクの評価
- 診断法の地方衛生研究所への整備
- 診療・診察のあり方の検討
- 治療・予防法の開発 等